

令和元年度 金沢錦丘中学校 学校評価最終報告

重点指標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	分析(成果と課題)及び改善策
1	中高一貫教育校の特長を生かし、学び方や生き方の質を高め、一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばすための工夫・改善を図る。	1-1 中高一貫教育校に学ぶ生徒として誇りを持ち、気持ちの良い挨拶と礼儀・礼節を大切にするとともに、時間や期限を守ることを通して、社会に通用する人材を育成する。	誰に対しても、自分から気持ちの良い挨拶ができています。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	生徒アンケート 肯定的評価80% 【判定:A】	全体的に評価は高いが、よく当てはまると回答した生徒が30%程度であり、前期よりも減少した。教師や代表生徒からの挨拶には、多くの生徒は気持ちよく返してくれるのだが、自分から進んで挨拶をしているとは言えないと感じているのではないかと。本校が進めるキャリア教育の第一歩として、今後もあいさつ運動などの仕掛けの強化とともに挨拶の意義等、心の指導を進めていくことが必要である。
		1-2 健康な生活の維持向上に努めるとともに、部活動を通して心身ともに逞しい生徒を育成する。	提出物や課題は、期限を守って提出している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価86% 【判定:B】	今年度より取り組んでいる主体的学習を進める方策として、「TO DO リスト」や「フォーサイト」を通じて見通しを持って家庭学習に取り組める生徒が徐々に増え、一定の成果が見られた。しかし、計画的に取り組むことがやや苦手な生徒は、課題提出に遅れが見られるため、個別に支援が必要な生徒に対して、粘り強く支援していくことが必要である。
		1-3 中高一貫教育校のメリットの1つである時間のゆとりを生かし、資格取得や各種コンクール等への積極的な参加を促し、自ら学び、創造性を伸ばそうとする生徒を育てる。	規則正しい生活をするとともに部活動を通して心身ともに逞しくなってきた。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	生徒アンケート 肯定的評価87% 【判定:B】	保護者アンケートでも、1・3年は80%、2年生では90%の肯定的評価があり、部活動を通しての生徒の人間的な成長に対して評価していることが分かる。しかし、休日が増えたことに対する保護者の不満も少しあるように感じる。今後も、保護者の理解を得つつ、部活動の意義を大切にし、人間力の成長に向けて努力していきたい。
		1-4 朝の全校読書に取り組み、読書の習慣化を図る。	英検の取得率(4級は中2、3級は中3、準2級は高1レベル) 1年 2年 3年 A4級65%以上 3級70%以上 準2級55%以上 B4級60%以上 3級60%以上 準2級45%以上 C4級55%以上 3級50%以上 準2級35%以上 D4級55%未満 3級50%未満 準2級35%未満	1年 53% 【判定:D】 2年 61% 【判定:B】 3年 52% 【判定:B】	英語は国レベルで強化が進んでおり、今年度も英検の全員受検に取り組んだ。英語教室に目標を掲示したり、英語の時間に指導したりするなど、少しでも上の目標が達成できるように取り組んできたことで、積極的にチャレンジする生徒が増えた。3学期は適性検査と日程が重なったため、外部受験をした生徒が多く、その結果が反映されていないため、やや低い達成率となっている。
		1-5 望ましい人間関係づくりといじめを見逃さない学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	読書が好きである。 肯定的評価が A85%以上 B80%以上 C75%以上 D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価75% 【判定:C】	全学年で朝読書に取り組み、図書委員会による「ブックトーク」など積極的な取り組みを行ってきたこともあり、前期に比べ2ポイント減少はしたが、昨年度より10%以上の伸びを見せた。今後も、読書に対する意識向上を目指し、図書委員会や国語科を中心に読書に取り組むことを推進していきたい。
		1-6 生徒一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばす教育を推進し、「自己有用感の高い生徒」を育てる。	朝読書に、集中して取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	生徒アンケート 肯定的評価79% 【判定:D】	8時10分より朝読書の開始となっており、多くの生徒は落ち着いて取り組めている。しかし、前期に比べて7ポイントの減少が見られたため、朝読書の意義を再確認し、落ち着いた学校生活を送るために大切な取り組みであることを伝えていきたい。
		1-7 望ましい人間関係づくりといじめを見逃さない学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	「学校が楽しい」と感じる生徒を増やせるとともに、生徒観察や定期的なアンケート等とおして実態把握に努め、小さな変化にも組織的に対応している。 肯定的評価が A100% B95%以上 C90%以上 D90%未満	教職員アンケート 肯定的評価100% 【判定:A】	毎月の迷惑調査、年二回の生活アンケートで生徒の声を拾い、些細なことでも見逃さない体制ができています。担任、教科担任、学年主任、生徒指導、教育相談、部活顧問が密に連絡を取り合うことで、迷惑行為の早期発見ができています。また、行為が見つかった後の指導も、組織的に対応し、保護者に対しても丁寧に対応している。
学校関係者評価委員会の評価		自己有用感の低い生徒が多いのが気になる。中高一貫教育校なのに、高校生との交流が中学生生活に役立っていると感じている生徒が少ない。否定的な回答をした生徒の把握と今後の対応を期待したい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		自己有用感を高める取り組みとして、生徒の良さを認め、褒める声かけを続けていくとともに、生徒が主体的に行事に取り組み、一人一人が活躍できる機会を増やしていきたい。また、中高一貫校のメリットを生かし、高校生との合同授業や、高校生徒会と中学生生徒会が合同で実施する行事を設定するなど、中高の交流も増やしていきたい。否定的な回答をした生徒への目配り、気配り、心配りを心がけ、きめ細かい指導をしていきたい。			

令和元年度 金沢錦丘中学校 学校評価最終報告

重点指標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	分析(成果と課題)及び改善策	
2	道徳教育やキャリア教育の充実及び積極的な生徒指導の推進を通して、高い志と人を大切にしている豊かな人間性、主体的に行動できる強い心を持った生徒を育成する。	2-1	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて、理想の実現や人を大切にしたい心、より良い社会の実現を目指すなどの道徳性を育む。	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、生徒が自己の成長や人を大切にしたい心が深まったことを感じている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	生徒アンケート 肯定的評価83% 【判定:C】	今年度より教科化され、本校でも道徳推進教師を中心に、一人一人の教師が道徳の授業をより一層大切に、改善に努めている。日頃から、各学年で導入や中心発問などの工夫、互見授業の実施、道徳通信の発行など、道徳の授業に前向きに取り組んでいるが、道徳の意義が伝わっていない一部生徒もいるのが現状である。。今後も教員間での授業改善に努めるとともに、道徳の大切さを生徒たちに伝えていきたい。
		2-2	総合的な学習の時間や特活の時間を中心に6年間を見通したキャリア教育を実践し、生徒の視野を広げ将来の夢や目標について考える取組を行う。	将来の夢や目標を持っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価76% 【判定:C】	各学年の発達段階を基に企業訪問や職場体験、修学旅行等の体験活動を計画、実施している。また、個人面談や先輩(高校生・大学生など)に話を聞く機会などを積み重ね、自分の将来に向けて努力できる生徒の育成を目指している。また、夢や3年間の学びの足跡を記録する「マイキャリア」を活用し、個々の成長を振り返る手立てを取り入れている。しかし、前期に比べ4ポイント減少したため、今後も、職業や進学の観点だけでなく、どう生きたいか、どうありたいかといった将来の自分の姿を意識できるよう支援していきたい。
				キャリア的行事は、自分の将来を考える機会となっている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価86% 【判定:B】	前期に比べ5ポイント減少したが、総合的な学習の時間での「企業調べ」、「職場体験を基にした課題解決学習」、「SDGsを基とした卒業論文」などに取り組むことで、自分の将来について考えるきっかけとなっている。今後も、各学期に行われるキャリア講演会や企業訪問、職場体験、修学旅行などのキャリア的行事を通して生徒達に深く考えさせていきたい。
				将来の夢や目標に向かって努力している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価70% 【判定:C】	本校が取り組んでいる「キャリア教育」を根幹とした教育活動は少しずつ定着し、夢を持つ生徒、キャリア的行事への評価などに少しずつ成果が出ているが、そのための努力として何が必要なのか、日頃の学びや行事、部活動など様々な活動に全力で取り組むことが将来につながるというイメージを持てていないのではないかと考える。今後もより一層、教育活動全体でのキャリア教育の推進を図っていきたい。
		2-3	学級会活動や生徒会活動において、1年生から段階的に話し合い活動や自治的な活動に取り組ませ、自主的・実践的な態度を育てる。	色々な活動や取組に対して、自分で考えて自主的に最後まで粘り強く取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート 肯定的評価85% 【判定:B】	言われたことはできるのだが、自分で考えて進んで行動することがなかなかできないことが、本校の生徒の大きな課題である。そのため、生徒に全校朝礼や行事の司会・運営、清掃ボランティアの募集など様々な活動を定着させてきた。また、学習面でも「TO DO リスト」やフォーサイト(生活ノート)の活用を通して、生徒自ら考えて行動する機会を増やしてきた。まだまだ十分な成果は得られないが、今後もそのような機会をできるだけ設定し、生徒が能動的に行動できる様にしていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		フォーサイトなどのポートフォリオを活用し、成長を実感させる取り組みがよい。否定的な回答をした生徒の把握と今後の対応を期待したい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		フォーサイトの利用も3年を経過し、上手に活用できる生徒も増え、主体的に取り組めるようになってきた。しかし、活用できない生徒もまだいるので、きめ細かい指導を心がけ、定着を図っていきたい。				

令和元年度 金沢錦丘中学校 学校評価最終報告

重点指標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	分析(成果と課題)及び改善策
3	学校研究のより一層の深化・充実を図るとともに、自律的な学びを通して、たくましさと粘り強さを伴った確かな学力を育成する。	3-1 生徒に授業の大切さを伝えるとともに、「分かる楽しさ」「できる喜び」「学ぶ面白さ」が味わえる授業づくりに努める。	教材研究に取り組み、「授業が良くわかる」と回答する生徒を増やせている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D60%未満	生徒アンケート 肯定的評価95% 【判定:A】	付けたい力を明確にした教材研究と、生徒をやる気にさせる指導・評価計画・テストの作成を目標に教師が授業改善に取り組んできた成果が出ている。今後は生徒たちに見通しを与え、主体的な学習者に育てて行くことが目標である。
		3-2 付けたい力が効果的に身に付く言語活動を設定したり、ICT活用を推進したりする。	授業で生徒の間で話し合う活動がよく行われ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	生徒アンケート 肯定的評価89% 【判定:A】	自分の考えを発表したり、グループ活動などで話し合う活動は大切であると95%以上の生徒が考えており、学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることができていると89%の生徒が答えている。各教科において、学習の目標や狙いを達成するために、効果的にグループやペアでの活動を取り入れてきていることが評価されている。しかし、個人思考の場面が不足していたり、授業の最後の全体での意見交流(振り返り)がなかったりするなどまだ課題はある。ICTの活用については教職員の意識も高まり、タブレットを活用した授業が増えてきた。
		3-3 基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、教える、学びきる指導を行う。	個に応じた指導を通して、学力推移調査や定期テストにおいて、下位層を減らすまたは増やさないことができている。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	教職員アンケート 肯定的評価78% 【判定:B】	教師の肯定的評価の中で、「よくあてはまる」の回答は20%未満とまだまだで改善が必要である。今年度より生徒が主体的な学習を身につけるために、「TO DO リスト」の変更や課題の精選を行っているが、まだ十分な成果を感じられていない部分が評価に影響を与えていると考えられる。今後の課題として、見通しを持って計画的に学習を進めることが苦手な生徒に対して、どのような支援が必要かを各教科、各学年で生徒の実情にあわせて改善していく必要がある。取り組みの検証及び改善を継続し、今後の成果につなげていきたい。
		3-4 論理的な思考力・表現力を育成するため、根拠や筋道を明確にして、説明や論述を明確にして、説明や論述をさせる指導を行う。	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導し、生徒の「論理的な思考力・表現力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	教職員アンケート 肯定的評価95% 【判定:A】	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導することは、本校が指導の重点として継続してきたことである。今後も、全ての教科で論理的思考につながる言語活動の工夫・改善を継続して行い、生徒の論理的思考力を伸ばしていきたい。
		3-5 批判的思考力を育成するため、課題設定、発問、学習形態等を工夫する。	多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、生徒の「批判的思考力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	教職員アンケート 肯定的評価95% 【判定:A】	「多様な観点から考察する力の育成」も本校の指導の重点としてきたが、どの教科でも学習課題の工夫や資料の提示など、生徒が自ら取り組みたくなる仕掛けが多く、その成果がでている。また、他者との学びの中で自分の考えを深める批判的思考力も伸ばすことができおり、今後も課題設定、発問、学習形態等の工夫を研究していきたい。
		3-6 高校の学習内容を視野に入れた発展的課題に取り組むことで、目的意識や向上心を高める。	6年間の系統性を踏まえ、それぞれの教科の指導を行っている。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	教職員アンケート 肯定的評価89% 【判定:A】	中高一貫教育校として、各教科において高校と連携した取り組みが定着してきた。しかし、6年間の系統性を踏まえてという視点においてはまだまだ課題が見られる。各教科で中高教科部会を定期的に実施し、教員間の交流に加えて、生徒間の交流も深める手だてを考えていく必要がある。
		3-7 自律的な学習習慣が身に付くよう指導・評価計画とテスト作成を工夫する。	計画的に学習を進め、週あたりの家庭学習時間の目標を達成している。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	教職員アンケート肯定的評価89% 保護者アンケート肯定的評価70% 生徒アンケート肯定的評価59% 【判定:D】	今年度の主体的な学習の取り組みに対して、まだ手探りな部分がある。そのため、計画的に取り組むことが苦手な生徒への支援が不十分であることが生徒評価の低さに影響を与えていると考えられる。保護者からも家庭学習の時間が減ったといった声があるのも事実である。学習時間の記入や、「フォーサイト」(生活ノート)の活用など様々な取り組みは実施しているが、今後も学年会や教科部会を通して、課題の量や取り組みせ方を工夫し学習習慣の定着を図っていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		自分の考えを他の人に説明できる生徒が多く、自己肯定感を高める取り組みや、安全安心な学校の成果と考えられる。否定的な回答をした生徒の把握と今後の対応を期待したい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		本校の授業研究の骨子とも言える、表現の力において肯定的な評価が多く見られたのは非常に良いが、まだまだ不十分な点も多いので、研究部の取り組みを中心に、全教科、全教育活動で生徒の思考力・表現力を高める取り組みを深めていきたい。			

令和元年度 金沢錦丘中学校 学校評価最終報告

重点指標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	分析(成果と課題)及び改善策
4	教職員の働き方や業務改善に関しての意識改革を図るとともに、学校経営について積極的に情報を公開し、安心して学べ、信頼され、県民からより選ばれる学校づくりを行う。	4-1長時間勤務をやむなしとするこれまでの働き方を見直し、限られた時間の中で教職員の専門性を生かしつつ、教材研究・授業準備や子供たちと向き合う時間を確保する。	時間外勤務時間月80時間超える教職員の数(月平均) A 0人 B 0～2人 C 2～4人 D 4人以上	時間外勤務時間月80時間を超える教職員の数月平均7人(4～1月) 【判定:D】	年度当初に時間外勤務を減らしていくための方針を確認し、最終退校時刻、月一回の定時退校日、部活動の休養日等を確認し20時退校を目標として全職員で取り組んでいる。判定はD評価ではあるが、前期に比べて3ポイント減少できた。前期は7月の総合訪問に向けた準備のため、時間外勤務時間80時間を超える職員の数はやや多くなったが、2学期以降は昨年度に比べて80時間以上の先生方は減少している。教育の質を落とさずにこれまでの働き方を見直すには、先生方の大きな意識改革が必要であり、今後も少しずつ改善に向けて粘り強く努力を続けていきたい。
		4-2中高一貫教育校に対する生徒及び保護者の期待やニーズを分析し、より望まれる学校づくりを目指す。	中高一貫教育校の現状の公開に、積極的に努めている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	保護者アンケート 肯定的評価93% 【判定:A】	各種通信やにしきネットはもちろん、更新に力を入れているホームページにより、タイムリーな情報発信を心がけている事が評価されていると考える。さらに、「学校は、公開週間や授業参観、保護者懇談等を通じて、積極的に学校公開に努めている」の評価も89%と一定の理解を得ることができた。今後も中高一貫校の現状を伝えられるように努力を続けていきたい。
			オープンキャンパスと学校説明会参加者数 A600人以上 B500人以上 C400人以上 D400人未満	参加児童数 春の学校説明会 168人 オープンキャンパス 225人 秋の学校説明会 176人 【判定:B】	春・秋2回の学校説明会やオープンキャンパスに参加された児童や保護者からは概ね良い感想をいただけたが、参加数が昨年度に比べ減少しているのが現状である。今年度も学校長を初め、全職員での小学校訪問などを通して、本校の魅力を伝える努力をしてきたが、今後も学校訪問を継続しつつ、ホームページの活用やPTAの協力を得て、中高一貫教育校としての魅力が伝わるよう、アピールを強化していく必要がある。
			適性検査の受験者数 A280人以上 B260人以上 C240人以上 D240人未満	適性検査志願者数 229名 【判定:D】	昨年度より6名増加となったが、倍率は2倍を切ることとなった。しかし、受付1日目の願書は例年以上に多く、本校への入学を希望する児童の熱は感じることができた。その成果と課題を検証し、本校の柱であるキャリア教育の充実を図るとともに、学校説明会やオープンキャンパス、1年生の母校訪問などを通して本校の魅力を児童に伝えていけるよう今後も取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価		中高一貫校に対する保護者の理解が課題である。スマホの使い方を考える時期に来ているのではないかな。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		中学PTAのみならず、高校PTAや高校職員との連携を深め、情報の共有、発信に努めていきたい。スマホについては、弊害が多く、また、授業で使うこともないので、今までと同じく、持たないようにお願いをしていきたい。保護者向けの講習会などもPTAと連携し、実施していきたい。			